

欧州各国の債務問題は、世界の金融市場に深刻な不安をもたらしている。この問題の直接の背景として、リーマン・ショック後の大幅な財政支出増加が指摘されることが多い。大きな注目を集めたラインハートとロゴフによる研究書(邦訳「国家は破綻する」)が明らかにしているように、歴史的にみても金融危機の後には公的債務が拡大す

欧州債務問題と人口動態の変化

日本総合研究所理事 翁 百合



る。経営が悪化した金融機関を救済するための公的資金投入といった直接的な財政支出に加え、景気悪化に対応する財政刺激策も必要になるからである。

だが、欧州で財政赤字拡大をもたらしているのは金融危機だけではない。共通しているもう一つの要素は高齢化である。ギリシャ、イタリアといった南欧の国々が置かれている状況はとりわけ厳しい。欧州

の財政赤字問題の解決には、金融危機の後遺症対策といった短期的な視点だけではなく、生産年齢人口の相対的な減少という高齢化の下で成長戦略、社会保障支出の見直し、税収確保などの財政健全化策、といった人口構成の変化に合わせた長期的視点も重要になって

いる。今後の人口動態の長期的な変化をみると、日米欧の先進3極の中で、2050年段階で人口減少に直面しないと予想されているのは米国だけである。

る。現在は生産年齢人口比率の高い中国も、一人っ子政策の帰結として多数の高齢人口を少数の労働人口で支えるという人口構成へ変化する。

このように、人口動態の変化は世界経済に大きな影響を与える可能性がある。最も急速な高齢化に直面している日本は、このままでは将来世代が多くの難題に直面するところが明らかであり、将来世代のための長期的な視点に立った政策の企画と実現は喫緊の課題である。